

平成27年度

「キャリア教育パイロット校事業」 実践報告集



平成28年3月
徳島県教育委員会



平成27年度 「キャリア教育パイロット校事業」について

本県子供たちの社会的・職業的自立に向けた能力・態度を育成するために、徳島県教育委員会では、平成26年3月に「徳島県キャリア教育推進指針」を策定し、平成26年度は、学校における「キャリア教育全体計画」の作成を進めてきました。

本事業は、「徳島県キャリア教育推進指針」や「キャリア教育全体計画」をもとに、意欲的にキャリア教育に取り組む学校を支援し、その成果等を普及することを通して、学校におけるキャリア教育の推進を図ることを目的として実施しました。

平成27年度「キャリア教育パイロット校事業」指定校

鳴門市撫養小学校
美馬市立江原中学校
徳島県立阿波高等学校
徳島県立つるぎ高等学校



研究テーマ

大好き！私たちのまち「撫養」

研究のねらい

地域の自然や働く方々の生き方から、ものの見方や考え方、学び方を身に付け、主体的、探究的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

実施内容

6年間で育てたい能力や態度等を明確にし、各学年ごとに重点目標を設定して、実践活動を行っている。具体例としては、次の通りである。

第2学年の生活科「お店たんけん」では、校区にある大道商店街の見学や、そこで働く方々との交流を行った。

第3学年では、総合的な学習の時間「まちのすてきさがし」に取り組み、校区内の工場や量販店等の見学や聞き取り調査をしながら、自分たちの住むまちを紹介するパンフレットづくりを行った。

第4学年社会科「焼き物を生かしたまちづくり」では鳴門市の伝統工芸品である大谷焼の職場見学を行い、地域のよさや地場産業を知り、地域に対する理解・愛着・誇りを育むキャリア教育を推進した。

6年生では、特に次の3点を研究の柱として実践研究に取り組んだ。

①「3L活動」

3L活動『Love(豊かな心), Lead(自主性), Learn(確かな学力)』では、毎朝行うあいさつ運動や清掃活動で集団の中での自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得するとともに、行事や集会等で、児童の自主的・自発的な発想や行動を重視した活動を年間を通して行った。

②「大好き撫養ドリームプラン」

校区内にある大道商店街や市役所、商工会の方々の協力を得て、商店街調査や起業家教育を行った。そして、この学習をもとに児童が独自の商品を企画・開発し、大道商店街「百円商店街」で一般の買い物客に対して1日販売実践を行った。



③「職場見学・体験活動」

地域の多様な職業モデル・人生モデルとの出会いや体験活動を通して、将来の自己の生き方について考えられるように、鳴門わかめの茎取り体験、介護・福祉施設での職場見学・交流体験、工業技術センターでのLED製品の製作体験、徳島ビジネスチャレンジメッセの見学等を行った。

[成果]

- 地域を知ることによって愛着を持ち、地域を大切に思う気持ちや態度を養うとともに、場に応じたあいさつやコミュニケーション力の向上、感謝する気持ちを持つことができた。
- 地域の商店街で働く方々との交流を通して、自分たちが地域の方々から愛されていることを実感し、将来、地域の発展に貢献したいという気持ちを高めることができた。
- 夢や希望を持って課題に対してたくましく取り組み、自分の良さに自信を持って集団の中で自己を生かそうとする態度や、失敗を恐れずに挑戦する姿勢が身に付いた。

研究の
成果と課題

[課題]

- 成果を学校内外へ情報発信する手段や機会を充実する。
- 児童の思考力・表現力の向上を目指す指導方法等の研究と実践が必要であり、教職員のスキルアップのための研修等を推進する。
- 近隣の中学校や高校と共に取り組むことができる体験活動を行うなど、キャリア教育における異校種間連携を推進する。

研究テーマ

自らの役割や将来の生き方・働き方を考える生徒の育成
～認め合い、高め合う活動の実践を通して～

研究のねらい

- ・相手の気持ちや状況に配慮し互いに認め合う中で、積極的に人間関係を築こうとする態度を養う。
- ・自らのよさや個性を知り、互いに高め合う中で、多様な生き方にふれ、働くことの意義を理解し、自己の生き方を考えさせる。

実施内容

「かかわる力」の育成

- 積極的に人間関係を構築する
- コミュニケーションの技能を習得する

- (1) アクティブラーニングの推進
 - ・発問を工夫した深い学び
 - ・グループ学習等での対話による学び
- (2) 校内研修の充実
 - 講師を招き、全体の指導力向上
- (3) 外部講師による講演会等の実施



「みつめる力」の育成

- よさや個性を伸ばすよう努力する
- 自分を律する努力をする

- (1) 自己肯定感の高揚
 - ・研究授業を実施し、指導力向上
 - ・よさを生かす指導方法の工夫改善
- (2) アンケートの実施（年2回）
 - ・ポートフォリオとして綴り、生徒自身も自己の成長や変容への気付き



全教育活動における3年間を見通した取組の推進

「すすむ力」の育成

- 主体的に課題解決を図る
- 成功や失敗から学び自己決定する

- (1) 目標設定とその振り返り
- (2) 教育相談・個別面談の実施
- (3) 委員会活動の活性化
 - ・学習委員会が家庭学習調査を行い、自分の目標達成度を明確に見えるよう工夫

第2学期中間考査前家庭学習時間調査

学年	調査項目	調査結果
1年生	1. 家庭学習の時間	1. 1日平均1.5時間
2年生	1. 家庭学習の時間	1. 1日平均2.0時間
3年生	1. 家庭学習の時間	1. 1日平均2.5時間

「えがく力」の育成

- 働くことの意義を理解する
- 自己の生き方を考える

- (1年生) 職業インタビュー等
- (2年生) 職場体験学習等
- (3年生) 体験入学・進路相談等
- (2年 → 1年) 職場体験から学んだ事
- (3年→1・2年) 卒業前のメッセージ



研究の成果と課題

[成果]

- 地域の多様な仕事や生き方について知り、経験することにより自分の将来の夢や生き方につなげて考えることができた。
- 学年の枠を越えた取組や行事等を通して人間関係の幅を広げ、多様な体験学習の成功体験から自分自身の成長を実感することができた。

[課題]

- 校区内の小学校との連携を一層深め、小中9年間の連続性を図る。
- 今年度の検証・改善を次年度に活かしていく。

研究テーマ

各教科で進めるキャリア教育
～「各教科」と「総合的な学習の時間」を関連付けたキャリア教育の推進～

研究のねらい

キャリア教育の視点を明確にした教科指導を充実するとともに、教科・領域における関連を図ることで、学習が現在や将来の生活に結び付いていることを生徒に実感させ、学ぶ意欲を高める。

実施内容

【1】総合的な学習の時間を中心とした取組

①職業研究（1学年）

望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる取組として、1年生全員を対象としたインターンシップの実施と報告会を開催した。

②環境教育研究（1学年）

環境フォトコンテストや学校林整備作業等を実施し、状況判断力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を身に付けさせる取組を行った。

③学部学科研究（1, 2学年）

自己の将来を設計するために必要な課題に取り組みさせるために、外部講師による大学・専門学校等模擬授業体験等を実施した。

④小論文研究（1, 2, 3学年）

小論文を読む、書くことを通じて、社会の様々な問題について知り、問題解決や自己の考えを表現する方法を学ばせた。

⑤朝読研究（1, 2, 3学年）

年間を通して実施し、想像力や集中力、言語能力の向上、豊かな人間性の伸長を図るとともに、自己の生き方・在り方について考えさせた。

【2】教科における取組

①各教科担任によるキャリア教育の視点を踏まえた授業を実施した。

②外部講師による「現代社会」における出前授業として、キャリア教育から、現代の労働問題の課題を踏まえつつ、自分の人生設計を考えさせる取組を行った。

【3】教職員研修の充実

①外部講師による講演会の開催。

演題「学力向上につながるキャリア教育」

②教職員によるワークショップ研修会の実施。

テーマ「生徒のよさと課題に基づく学校課題の焦点化および効果のある指導について」

【成果】

- 生徒対象のアンケートからは、本校の取組について8割以上の生徒が自らの進路選択に「役立っている」と好意的に評価している。
- 教職員研修において、生徒のよさと課題、今後の取組の方向性等に対する共通理解を図ることができた。

【課題】

- 生徒の主体性や創造性をより伸ばさせる取組内容に改善していくことが課題である。
- 組織的に生徒のやる気を引き出せる日々の声掛けや、キャリア教育を教科等で進めるための指導力の向上が必要である。

研究の
成果と課題

研究テーマ

地域・企業との連携によるビジネスキャリア教育

研究のねらい

- ・企業での体験的活動を通して、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることにより、生徒一人一人のキャリア発達を促す。
- ・進路決定における課題の発見、解決に向けて、主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニングの充実を図る。

実施内容

①[職場見学の実施]

「(株)藤高」「(株)高橋ふとん店」(地域ビジネス科1学年)、「(株)テレコメディア」(商業科2学年)の職場見学を行い、電子商取引の実際の店舗運営の学習や、情報中心関連企業の現場でビジネスマナーの実践的な学習を行った。

また、地域ビジネス科2学年は、四国大学において電子商取引に必要とされる情報通信技術(コンテンツ制作や映像編集)の高度なスキルを学ぶとともに、専門分野の職業理解を深めた。



②[インターンシップの実施]

商業科2年生の生徒を対象として、地元企業5社で9名の生徒が様々な職種の職場体験を行い、働くことの意義や喜びを知り、職業理解を深めた。



③[職業人講話の実施]

講演「就職するに当たっての考え方と就職先選びのポイント」(株)高橋ふとん店社長高橋武良氏、「女性のためのキャリアアップについて」阿波野菜コンシェルジュ高井綾子氏を招き、職業人として必要とする能力や、企業の求める人材等について

講話をいただき、主体的によりよい進路選択ができるよう支援した。

④[活動報告会(職場見学、インターンシップ)の実施]

職場体験学習での学習成果をプレゼンテーションすることで成果の共有を図り進路意識を高めた。

[成果]

- 製造現場の見学やインターンシップを通して「働くこと」の意義について考えることができ、勤労観・職業観が養われた。
 - 成果を学年で共有することで、自らの課題解決に向けて行動し主体的な進路選択ができるよう進路意識の高揚を図ることができた。
- さらに、企業、大学や関係機関との連携により体験的学習の充実が図れ、さらなる学習意欲の向上へとつながった。

[課題]

- 体系的な学習体制を整え、さらなる商業科・工業科併設のメリットを活かした連携を図り、職場見学、インターンシップの充実拡大をしていきたい。

研究の
成果と課題

